第１回明和町小学校区の編制にかかる基本計画（案）説明会での主なご質問・意見等に対する回答一覧

①教育について　＜質問・意見等一覧＞　⇒　＜回答＞

＜質問・意見等一覧＞	＜回答＞
・小規模校の方がきめ細かな教育ができ、目が届きやすい。規模が大きくなれば、逆にトラブルやいじめ等が発生するのでは。 ・大人数の教育は先生の目が届きにくく、いじめや不登校等を生みやすい。 ・少人数の方がいじめも少ない、先生の目も行き届く。自律心も育ちやすい。それに学力もその方が向上すると思う。大きな学校では、小学生はかえって周りに無関心になる。 ・再編したら大きな学校になって、あたかも子供達にとってもいいように考えがちですが、小さい学校の方が先生や地域の目も行き届き、いじめも少なく、学習能力も向上すると思います。 ・学校を建て替えるなら、小さな学校、目の届く教育に絶対変えるべき。求められている人材は小集団のなかで主体的、かつ積極的に自らの能力を発揮できる若者である。大集団では決してこのような能力は育めない。 ・大人数での目の届かない教育によるいじめや引きこもり、体罰、学力低下、無理な規則、自主性のない児童など、様々な問題が起こるのでは。特に教育面では、小規模学校、学級による教育が世界中で進められている。子供達の未来は人口減少による小規模な社会であり、さらに学力だけでは通用しない。主体的かつ積極的に能力を発揮し問題解決ができる若者を求めている。今からは小規模学校による目の届く教育で、人間形成にも取り組みが必要である。 ・再編した際に起こりうる問題（いじめ、差別、等）の対策を。 ・少人数制の学校がいいので再編には反対です。 ・修正小について、いじめ等はあるのか。把握しているのか。 ・小学校再編について反対です。小学校を再編した場合、生徒数に対して先生の目が行き届かない。生徒内でのいじめの拡大、成績の個人差、保護者の行事の不参加、割り振り、登下校の距離、など、様々な問題が発生する可能性が十分にある。 ・小規模校の方がいじめは無くなる、先生の目が行き届く。逆に規模が大きくなれば目の行き届きがなくなり、いじめも増え、指導もままならなくなる。２校にすると維持費は少なくなるが、いじめやコミュニケーションの問題が沢山発生するのでは。 ・いじめ問題は規模の問題ではなく、その学校の対応方法によると思う。 ・いじめ等の対策のため、複数学級は必要だ。 ・諸外国でも、少人数体制による集中教育で学力向上が非常にみられる。大人数教育は世界に遅れをとる。 ・複式学級は、縦の繋がりができる。児童はまだ小さいので、再編した際、大きな集団の方がかえって無関心になる。小さな集団の方が逆に主体性等が芽生えるのでは。 ・大規模校のすることは「切り捨て」。地域に密着した小さい学校があることが、明和町の良いところだった。 ・大規模校より小規模校の方が良い意見が、世界的にどんどん出ている。 ・人数が少ない観点はあるが逆に人数が多いという話が出ていない。適正規模を念頭に入れて検討してほしい。 ・子ども達は他の場所へ行っても学習して適応していく。幼保の再編を見てもそうだ。それなら、小さい学校よりも大きい学校へ行って教育を行った方が良い。社会へ出ても人との付き合いができる。	町としては、学校教育法施行規則第 41 条「小学校の学級数は、12 学級以上 18 学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りでない。」の基準に基づいた学級編制が可能となる規模を維持したいと考えています。 学校全体では複数学級を維持することで、クラス替えが可能となり、児童がより多くの者と接する機会を提供することができ、学校の特質である「集団の中で多様な考え方に触れる」、「互いを認め合う」、「互いに協力し合い、切磋琢磨する」環境が整えやすくなります。また、いじめ等があった場合にも対処がしやすくなります。 一方で、学級単位では少人数体制をとることで、一人ひとりに目が行き届きやすく、きめ細やかな教育が可能となる体制を維持していく必要があると考えています。 以上のことから、今後の校区編制にあたっては、多人数と少人数それぞれの利点を活かすことで、「一人ひとりの資質、能力の向上」や「豊かな人間関係の構築」、「多様な集団の形成」が図られるよう努めてまいります。 なお、いじめ防止対策については、各学校から発生件数、対処件数等の結果報告があるほか、いじめ防止対策に関する連携が図られるよう明和町いじめ問題対策連絡協議会において情報交換等を行い、必要な対策を検討しています。
・小中一貫教育をしていく中で、新しくできた中学校は、どう活用していくのか。 ・小中一貫教育を行うにあたり、新しい小学校と斎宮小学校、明星小学校とで学力格差が出るのでは。 ・小中一貫教育について、どうしても中学校と隣接した再編小学校が、明和中学校との交流が斎宮小学校や明星小学校と比べて盛んにならないか。 ・小中一貫教育を開始するのは、何年くらいの予定か。 ・再編小学校が出来たら、斎宮小学校と明星小学校も一緒に小中一貫教育を行うのか。 ・残った斎宮小学校、明星小学校に対する教育方針（指導）としては、小中一貫と同等の教育を行うのか？	第 1 期再編小学校、斎宮小学校並びに明星小学校 3 校とも再編小学校開校と同時に導入する予定です。明和町では小学校の英語教科化に伴い、既に中学校英語担当教諭が小学校で乗り入れ授業を行うなど、小中一貫教育に向けた素地がありますが、導入後に学校間で学力差が生じないよう、体制を充分に検討します。

・再編後、異なる地域の児童が集まる中、それぞれの地域の歴史や文化等、郷土に関する教育をどう組み込んでいくか、もっと具体的に教えてほしい。 ・再編小学校の教育に、体験型防災プログラムを是非入れて、地域の方と繋がりを持たせたり、児童に危機管理能力を身につけさせたりしてほしい。 ・教育や防災等で活かせる部分について、地域をどんどん使ってほしい。郷土愛が育つと思うので、大きくなって県外へ行っても、将来に生きてくる。 ・郷土愛の教育について、外来講師という形で地域の方が学校へ来て教えてもらう回数を増やしてはどうか。	再編小学校では今までの校区に捉われることなく、地域の歴史や文化に関する教育が行えるよう、これまで以上に地域との繋がりを重視し、地域の皆様が様々な形で関わっていただけるような学校づくり（コミュニティスクール化）を目指します。 郷土愛を育む教育に関する具体的な取組は、再編小学校が開校した後、地域の皆様、保護者、教職員及び教育委員会が連携して検討していきたいと考えています。 また、防災教育についても体験型防災プログラム等を取り入れた取組を検討していきます。 小中一貫教育を縦糸に、コミュニティスクールを横糸として明和町の教育を構築していくことで、地域総ぐるみで、将来の明和町を支えていく子ども達を育てていくとともに、地域の絆をより強くし、活性化させていくことを狙いとします。
・校区の再編が決まってからの数年間の子ども達の負担が大きい。この数年の間に他の小学校と交流できる場を。いざ他の大きい小学校へ行く際に不安が少なくなるよう、お願いしたい。 ・みょうじょうこども園を見ていると、修正地区や斎宮地区などの子が来ていて、顔馴染みになっている。もし修正小が再編されて明星小へ来ても、一緒になって育つのでは。だから、もっと小さい頃からの教育面をしっかり考えていった方が良い。 ・再編が決まれば、就学前から考えると最初から他の小学校へ行った方が負担少ない。 ・幼保と小学校と２度の編制となると精神面が心配。できるだけ早く進めてほしいのと、子供達の精神面を見ていただけるような先生、場所も準備していただきたいです。	校区再編の過渡期には、関係者に対して少なからず負担をお掛けすることとなります。 特に子どもの精神的な負担や不安を少しでも軽減できるよう、頂戴したご意見にありますように再編予定の小学校の児童が交流できる場をつくるなどの取組を検討していきます。 保護者の皆様におかれましても、環境が変わることでのお子様の新たな人間関係や学校での様子など心配事が多いことと存じます。学校では、児童の気持ちを十分に踏まえ、新たな環境の中でも安心して学校生活を送ることができるよう努めます。
・修正小の児童数は昔から少なかったが、複式になるような予測はしてなかったのか。 ・複式学級について、できるだけ加配をつけてもらえるようにしてほしい。 ・複式学級の説明に、本質を含めた実態の説明を入れてほしい。	複式学級の懸念は以前からあり、これを解消するため三重県教育委員会へ加配依頼を行うことで加配教諭が配置されてきました。 しかしながら、児童数は年々減少しており、複式学級が解消される見込みがない状況です。 複式学級を抜本的に解消するには、小学校区編成により適正規模・適正配置を目指す必要があります。

②放課後児童クラブ（学童保育）について

＜質問・意見等一覧＞ ⇒	＜回答＞
・現在の学童保育の状況はどんなものか。また再編された場合、学童保育はどうなるのか。 ・再編後、学童保育はどこで行うのか。 ・夏季学童保育での給食もできればお願いします。夏場にお弁当をもたせるのが心配です。	現在の学童保育施設は、各小学校の敷地内に併設する形で設置されています。 再編小学校建設の際にも学童保育に係る施設は、学校との連携を考慮して新小学校の敷地内に設置することが望ましいと考えています。運用面はそれを踏まえて検討していきます。
・学童保育の状況について教えてほしい。	現在の学童保育に係る施設は、各小学校の敷地内に併設されており、学校終業後児童が徒歩で学童保育施設へ通い、帰宅時の迎えは保護者が行っています。なお、修正小学校については、少人数のため斎宮小学校の学童保育施設を利用しており、学校から施設までの往路はタクシーにて送っています。

③スクールバスについて　＜質問・意見等一覧＞　⇒　＜回答＞

＜質問・意見等一覧＞	＜回答＞
・スクールバスの運用により、児童や保護者の負担になるのでは。 ・スクールバスは何台必要か。運転手はいるのか。バスの乗り降りの際の保護者の見送り等、車が沢山走っており、地域の人的サポート（老人会の見守りなど）が必要では。それをやっていけるか不安。 ・スクールバスについて、急にお腹が痛くなった場合等の際、バスは待ってくれるのか。後で保護者が子どもを送る必要が出てきてしまうのか。複数台走らせた上、柔軟な対応ができるようにしてほしい。 ・現在、地域の見守り隊をしているが、スクールバスの乗り降りの際などの見守りをどうするのか。 ・大淀や下御糸地区の子がどうやってスクールバスで通うのか。ルートや集合時間、乗り遅れた場合など、親としては意外とそういう細かい部分が気になる。保護者は何時に起きる必要があるかなど、より詳細な説明をした方が良い。 ・スクールバスのバス停等を町民バスくらいは最低ほしい。７時５０分に家を出れば学校に間に合うようにしてもらえたら、全面的に計画に賛成。 ・スクールバスについて、運用の基準は考えているのか。 ・スクールバスは、今の段階で通学距離等、ある程度の案はあるのか。 ・町民バスの利用時間帯や利用頻度、路線変更などを見直し、町民バスとの併用の検討をしてほしい。	国の基準では小学生の適正な通学距離は４ｋｍ以内とされています。具体的な運用方法については、再編に向けた準備委員会等において検討していきますが、現時点では、第１期再編小学校へ通う児童の中で大淀小学校と下御糸小学校に在籍していた児童及び、再編小学校から直線距離でおおむね３ｋｍ以上の児童はスクールバスの利用を想定しています。また、それ以外にも、国道２３号線以北に在住の児童や歩道が整備されていない通学路などを歩く必要がある児童などの道路事情も鑑みて、スクールバスを利用する範囲を決めていきます。バスについては複数のルートを設け、ルート毎に２箇所以上の停留所を設けたいと考えています。なお、停留所は大淀小学校（跡地）や下御糸小学校（跡地）といった公共の場所を想定しており、そこへ集合してバスの乗り降りを行うことを想定しています。そして、停留所毎に地域の方に見守りを依頼するなどして、地域との繋がりを保てる一つの手立てとしていきたいと考えます。 なお、第１期再編小学校の運営開始と同時に、斎宮小学校と明星小学校へ通う児童の中でも遠方の児童については、町民バスを利用できないか検討していきます。そして、約２０年後の斎宮小学校、明星小学校の第２期再編小学校建設時には、改めてスクールバスの運用を検討いたします。
・スクールバスの維持費の見込みはどれくらいか。	明和町が直営でスクールバスを運用した場合、バス１台につき概算で年間 200 万円強の維持費がかかる見込みです。なお、それ以外にも導入時における購入費や、経年劣化により修繕費、買い替え費等が発生することが考えられます。
・スクールバスを運用すれば、児童の体力低下に拍車がかかるのでは。 ・スクールバスに、全くペースが違う小１と小６の子を乗せるのは、心配。	スクールバスの停留所を複数設け、そこへ集合していただくことを想定しています。スクールバスを利用する児童は、再編小学校からの距離や道路事情等総合的に検討して決めていくとともに、運動不足にならないように、また、比較的広い公共の場所などを停留所にすることで安全面も保てるように検討していきます。 例えば、ルート毎に複数のバスを運行し高学年と低学年で乗車するバスを分けるなど、今後、再編に向けた準備委員会等で詳細を検討していきます。
・スクールバスについての運用事例を、他県等へ赴いて目で確認して調査してほしい。 ・スクールバスについて、登下校以外にも学校間の交流や小学校の子が中学校へ行く際の移動手段、社会見学や修学旅行等に使用できれば、小中一貫教育や経費の削減にもつながると思うので、有効活用をお願いしたい。	度会町や大台町ではスクールバスを運用しており、運用面やコスト面等調査しながら検討を行っています。また、その他の市町でも町民バス等との併用を行っているところもあり、登下校以外の行事等での利活用を含め、引き続き検討していきます。

④校区編制について　　＜質問・意見等一覧＞　⇒　＜回答＞

＜質問・意見等一覧＞	＜回答＞
・北野、東野、平尾の方が全員第１期再編小学校へ行ってしまうと逆に南側の小学校の人数が少なくなる。自由校区にする必要はあるのか。 ・近いからと言って北野地区の子を第１期再編小学校へ行かせれば、結構な人数となる。人数が少ないのも問題だが、上限についても考えてほしい。 ・斎宮小学校を自由校区にした場合に複数・複式学級になる可能性はないのか？ ・修正小学校の自由校区について、できれば全員明星小学校へ来てもらいたい。その方が斎宮小学校との人数的なバランスがとれる。 ・自由校区について、町が行先を指定するのか、保護者が選べるのか。 ・修正小学校や平尾、東野、北野各地区の自由校区については、行政が行先を決めてほしい。 ・学校選択を自由にすると保護者の意向が出てくる。子ども達にとって、まとめて同じ学校へ行くのが良い。 ・修正小学校の自由校区について、学校は児童が決めるべき。 ・自由校区に賛成します。通学の安全面等考えたら近い方に通える方がいいと思います。 ・自宅から斎宮小学校まで距離があるため、計画案通り小学校の選択制ができると嬉しいです。 ・自由校区は地域単位なのか、個人単位で決められるのか。友達と別れることも考えられるが。 ・自由校区で、兄弟別の小学校へ行くことになった場合、行事に両方行けるよう、日程を分けてほしい。 ・自由校区について、近所の子が別々の学校へ行くことも考えられるが、地域の分断につながらないか。結局、子どもの数が減っていかないか。	北野、東野、平尾地区の児童が第１期再編小学校に通った場合、令和７年度時点の推計では、斎宮小学校は明星小学校と同程度の人数となる予定であり一定規模の児童数は確保できると想定しています。 また、今後の人口予測を考慮し、町として人口減少対策に取り組んだ上で、将来的に児童数が減少してしまった場合においても国の適正規模を維持するため、第１期再編小学校の最大規模としては児童数７００人程度の学校を想定しています。 なお、再編を進めるなかで、斎宮小学校区の北野地区、東野地区、平尾地区については経過措置として原則、小学校区の再編後２年間は新校区と旧校区のどちらかを選択することができる自由校区制を考えています。２年経過後は特別な事情があり区域外通学が認められた場合を除き、新校区へ通学していただく考えです。 地域単位なのか、個人単位なのかを含めた詳細な部分については、今後、再編に向けた準備委員会等において検討していきます。 修正小学校区に関しては、再編に向けて地元と十分に協議し、再編の時期や新しい校区など、詳細について検討していきます。
・蓑村地区の子を修正小学校に来させられないか、検討してほしい。 ・岩内地区や池村地区、蓑村地区の子を修正小学校へ来てもらうのはできないのか。この辺りの子は修正小学校の方が近くて良いのでは。 ・修正小学校は、蓑村地区の児童を来てもらうなどすれば複式学級は解消できるはず。柔軟に考えてほしい。	町としては今後の人口予測を考慮し、もし将来的に児童数が減少したとしても国の適正規模を維持したいと考えます。仮に、蓑村や池村の近隣自治会の児童全員が修正小学校へ通った場合でも、令和７年度の推計で合計７０人程度であり修正小学校は適正規模を満たすことができません。修正小学校の児童は斎宮小学校もしくは明星小学校に校区変更し、適正規模の中で、ある程度の規模の集団生活、教育を実施したいと考えます。
・修正小学校は、いつ頃自由校区になるのか。 ・来年修正小学校へ入る予定だが、再編計画からすると、どこへ行くことになるだろう。	今後、地域の皆様と十分に話し合い進めていきますが、現状既に複式学級となっていることから、児童にとってできるだけ早く適正規模の環境下での学習が必要です。明星小学校もしくは斎宮小学校へ通学していただくことを前提に、再編を進めるよう考えています。
・昔、平尾地区の方が明星小へ行けず、斎宮小へ行った経緯がある。将来のある若い方の意見を聞いてもらいたい。若い方が参加し、意見を言える場を作ってほしい。	就学前児童の保護者を対象とした説明会を実施します。また、再編に向けた準備委員会等でも保護者の方のご意見をいただくことができると考えています。

⑤防災について　　＜質問・意見等一覧＞　⇒　＜回答＞

＜質問・意見等一覧＞	＜回答＞
・日常的な安全確保には地域に学校が必要。 ・冬場の避難所として、壁のある大淀小学校は統合せず残すべき。 ・地震の際、液状化など様々な異常が起きれば、遠くへ避難することは不可能。長期間滞在できるように、学校として維持していけば良いのでは。 ・再編後、家にいるタイミングで災害が発生した場合、避難場所はどうなるのか。津波避難タワーでは冬は寒い。近い所に学校があった方が有難い。 ・休日に災害が発生した場合、町の中心まで逃げられない。 ・避難タワーは足が悪ければ登れないし、真冬では耐えられない。学校があることで更に多くの避難所を確保できるのでは。 ・ハザード区域だからこそ避難場所が１つでも多く必要である。防災機能を持たせた小規模校舎でも十分。	現在、大淀小学校と下御糸小学校は緊急津波避難施設であり、津波が発生した場合の緊急の避難場所として明和町津波避難計画に記載されています。万が一、津波が発生した場合は安全な場所まで逃げていただくことが第一ですが、やむを得ず安全な場所まで逃げることができない場合の為に、再編により小学校として使用しなくなったこれら２つの学校の校舎は、緊急津波避難施設として残すことを考えております。また、台風等の風水害時の避難所として活用されている体育館についても、引き続き利用していきたいと考えています。 そして、再編小学校においては在宅時などの日常生活における避難も含めた防災教育の実施を目指します。明和町は南海トラフ地震の被害が甚大なものと想定されるため、引き続きそれぞれの地域に応じた防災教育を実施していく考えです。 地域においても防災訓練等を通じて災害時の避難や自助・共助といった地域の防災力向上に取り組んでいきます。
・第２グラウンドは調整池となっている。再編小学校を建てた時、周囲が水没、河川の氾濫が無いよう、検討を。 ・建設候補地の第２グラウンド周辺は大雨等で冠水する。調整池等の整備を。 ・昨年の台風時、修正小学校の進入路が冠水し、避難所が閉鎖された。進入路を嵩上げし、避難所として機能するようにしてほしい。	再編小学校を建設する際には、周辺の排水整備や道路整備を検討します。 また、修正小学校への進入路の冠水については、どのような方法で解消することができるか検討いたします。一つの対策案として、避難所として孤立状態にならないために、小学校北側の宮川用水管理道路に緊急時用の進入路を整備することが考えられます（高低差約１.６m、延長１３m）。

・津波対策で１階部分は児童を置かず、２，３階で授業をさせてはどうか。 ・大淀小学校については盛り土した上、１階を教室無しにし、２階以上に教室を造れば安全ではないか。 ・盛り土をして今の規模のまま建てたほうが安くならないか。財政面が理由であればもっと試算して検討を。 ・旧校舎に津波避難タワーの機能を持たせたいとあるが、津波で被害を受ける可能性がある。特に大淀小学校は液状化の心配がないのか。 ・大淀小学校は耐用年数が来て危ないから統合するのに、それを津波避難タワーのような活用を考えるのは、整合性が無いのでは。何年後には解体する等の丁寧な説明をしていくべきでは。	三重県の作成した液状化危険度予測図（平成２５年度地震被害想定調査）によりますと、理論上最大クラスの南海トラフ地震が発生した場合、明和町の北部のほぼ半分が液状化の危険が極めて高いことが予測されており、さらに、高い盛土を行った場所は大地震や津波の際に崩れる危険性があります。行政として、あえてハザード区域内に盛り土して学校を建設することは考えられません。少しでも安全な場所に子ども達の教育の場を設けることが重要と考えます。なお、仮に大淀小学校の建物敷地部分及びグラウンド部分を津波浸水対策として５ｍ盛り土した場合、概算で６億円程度の費用がかかる可能性があります。 なお、教育環境面や防災面から校区再編を行い閉校となったとしても、津波から安全な場所まで逃げることができない場合のために、大淀小学校、下御糸小学校の校舎は緊急津波避難施設として残すことを考えています。その中で有事の際に機能するよう、必要な整備は検討していきます。
・教育と防災をくっつけすぎではないか。 ・現在、大淀小学校と下御糸小学校は月に何度か避難訓練しているが、再編小学校ではどんな訓練計画を考えているのか。大淀小学校の場合は、津波避難タワーや道中のブロック塀を活用して学習できているが、それらを学べる機会が無くなるのでは。 ・災害時、再編小学校へ一斉に避難してくると思うが、きちんと機能するのか。	より安全な場所で子ども達の教育を行うために、防災面を考慮しつつ様々なことについて総合的に検討し、地域の皆様のご協力をいただき防災教育に取り組むことを目指します。 また、災害時にはそれぞれ明和町地域防災計画で指定された避難所に避難する計画となっています。 今後、再編小学校は避難所として指定するか検討した上で、施設の機能整備についても検討していきます。
・未来を担う子ども達を守るために、あらゆる災害を想定して建設場所を決定するのは当然のことであり、近い将来発生が予測される南海トラフ地震等が起こっても、津波等の心配のないような場所での建設を最優先で検討されたい。	再編小学校を建設する際は、より安全な場所で子ども達の教育を行うために、ハザード区域外の安全な場所に建設します。
・東日本大震災で被災した学校がどんな役割をしたか、検討したのか。 ・安心安全という意味での再編は賛成。災害はいつくるか分からないので、ここまできたら進めてほしい。	津波被害に遭った学校の中で、校舎の３階や屋上へ児童や教職員等を津波から避難させ、校舎内の教室等を避難所や救急医療場所等として使用した事例があります。こういった事例等を踏まえ、現時点では、津波浸水想定区域内の大淀小学校と下御糸小学校の校舎について、緊急津波避難施設として残すことを想定しています。

⑥過疎化対策（コミュニティ、跡地利用含む）について

＜質問・意見等一覧＞	⇒ ＜回答＞
・学校が無くなると、若い人が住まなくなり過疎化が進む。行政は責任とれるのか。 ・小学校が無くなれば若い人がいなくなり、過疎化が進み、コミュニティの崩壊に繋がりかねない。 ・地域毎に学校がある方が、コミュニティが機能すると思うので再編反対。学校の近くに家を建てる方もいる。 ・海岸沿いの過疎化に拍車がかかる。学校が無い所に家を建てない。どう対処するのか、いつか必ず答えをいただきたい。 ・新規に引越ししてきた親御さんは、新しくできる学校の周辺に家を建てると思う。ここは必然的に過疎化が進むのでは。 ・再編された場合、大淀や下御糸地区にも人が住んでもらえるように、何らかの対策は考えているのか。 ・老人会の見守り等、子ども達と老人達の繋がりは強い。行事等で子どもと老人がよく話をしているが、無くなってしまう。具体的な対策は考えているのか。 ・近くに小学校があるから住宅等が建った部分もある。安全面、団地の活性化のために学校を残してほしい。 ・小学校や保育所が無くなるので、大淀地区の評価額が下がるのではないか。固定資産税や住民税を安くするなど、思い切った施策を打って大淀地区に住むメリットを増やせば、住む人も増えるのでは。 ・小学校再編に反対します。理由は、無くなった地区が過疎化すると思うからです。 ・経過措置として分校にしてはどうか。一気にすると、空き家状態が怖いのと、この周辺の過疎化が一気に加速する。それと、７歳になっていきなり第２グラウンドへ通うと、郷土意識が無くなっていく。 ・資料の「地域との関わりを重視していくことが必要と考えております。」の表現は、小学校にすごく携わって色んな活動をされている方もいるので、おかしいのでは。	地域に学校があることは、地域コミュニティを維持する上での一つの要素として考えられますが、残念ながら全国的に学校が近くにあっても過疎化が進んでいる現状があります。過疎化対策として重要なのは、地域の皆さんの活力であり、それを支えるのが町行政であると考えます。地域コミュニティについては、町行政の考え方として、学校と保護者や地域の皆様がともに知恵を出し合い、地域とともある学校づくり「コミュニティスクール」を進めることで、地域の繋がりを維持していきたいと考えています。その中で、地域との繋がりを保てる一つの手立てとして、スクールバスの停留所毎に地域の方に見守りを依頼することなどを考えています。 再編後の旧校舎や体育館・グラウンドについては、跡地利用検討委員会（仮称）を設置し、地域コミュニティを維持する場やそれ以外の活用方法などを、地域の皆様のご意見を伺い、また民間等のアイディアも募集しながら、地域に適した跡地利用を検討していきます。

・再編後の旧校舎やグラウンドの管理は、地域の方々に任すことになると思うが、荒れ放題にならないか。 ・治安等悪くならないよう、廃校後の修正小学校の維持管理等の計画の検討を。 ・台風等によりガラス等が割れた場合、旧校舎の管理は誰がするのか。また、再編して学校に人がいなくなると、獣や不法投棄が増えるのでは。	再編後の旧校舎や体育館・グラウンドの跡地利用方針を立て、適正に進めていきます。 なお、現時点の考えとして、津波浸水想定区域にある学校の校舎は、緊急津波避難施設として残すことを考えております。また、台風等の風水害時の避難所として活用されている体育館についても、引き続き利用していきたいと考えており、そのための施設の維持管理は行います。
・行政側からコミュニティとしての活用法のモデルを先に提示してほしい。一般住民ではわかりにくい。 ・跡地利用について、老人ホームになった例もあるが、こういった活用も検討したのか。 ・これまでに廃校になった施設は何かに使われているのか。他の建物の事を考えた上で、財源について考慮し、校区の再編を検討すべき。 ・再編されても旧校舎は残るので、児童の学童の場や高齢者達が子ども達へ何か教える場所などで活用しては。	跡地利用の詳細については、今後、跡地利用検討委員会（仮称）を立ち上げて地域の皆様のご意見も伺いながら検討していく考えです。全国的な学校跡地の活用法としては、子育て支援施設や社会教育施設、福祉施設、レストラン、また近隣では、度会町が医療福祉複合型施設として、また遺跡があるので歴史館として活用している事例があり、非常に多岐にわたっております。このような事例を引き続き検討し、地域コミュニティを維持する場やそれ以外の利用法など、例えば民間等のアイディアも募集するなどして、地域毎に適した活用ができるよう目指します。 学校跡地の維持管理に要する費用については、現時点における費用対効果の検証の中で一定程度の維持管理費を見込んでいます。旧校舎等をどのような形で利用するかで維持管理費等も変わりますが、跡地利用の検討委員会を立ち上げ、利活用方法と併せて精査・検討したいと考えます。
・第２グラウンドで活動されている方は、再編後、どこで活動するのか。 ・今第２グラウンドを使用している生徒は、再編小が建ったらどうなるのか。 ・第２グラウンドは野球やソフトボール、サッカー場があるが、グラウンドを無くした場合、クラブ活動への支障はないのか。	第２グラウンドに再編小学校を建てるとすれば、現在の面積の半分程度が学校敷地となります。一方、中学校の第１グラウンドは、本年度整備工事を行い少し広くなる予定です。校区再編後は、これらの中学校グラウンドと廃校になる小学校のグラウンドを利用し、使用範囲を確保したいと考えます。
・第２グラウンドへ年配の方は、わざわざ行かないと思う。地元に学校があるのがコミュニティに一番だ。 ・第２グラウンドへ再編小学校を建てたとして、急な迎えに老人が行けるのか。検討してほしい。	再編小学校の施設に関しても地域コミュニティ形成の場としての活用を検討しますが、現在の小学校区単位での地域コミュニティも存続していけるよう、旧校舎施設についても地域毎に最適な利活用方法を検討していきます。 また、緊急時の送迎に対応できるような運用等についても、今後、再編に向けた検討委員会等で検討していきます。

⑦まちづくりについて　　＜質問・意見等一覧＞　　⇒　　＜回答＞

・大企業が無いのが欠点であるので、企業誘致にもっと力を入れてはどうか。 ・まちづくりが非常に重要となる。北側は学校がなくなり、買い物する場所もイオンくらい。どう人口維持していくか等、早いうちにまた意見交換したい。 ・町全体から、今後のまちの在り方（中心部へ人口を集めていくのか、等）を考え、示しながら説明いただきたい。将来の地域像がその辺により変わってくる。 ・お金が儲かる方法を模索し、それを踏まえたまちづくりをし、駅周辺を活性化できたら、人口維持可能では。 ・将来、この計画が良かった、と思えるような町にしてもらいたい。 ・第２期の再編については長期計画なので、町がどういう動きか等様々なことを加味しつつ検討願いたい。 ・祇園を好きな方が多いので、再編を機に、斎王と大淀をくっつけて町としてPRしてほしい。	まちづくりは、総合計画や明和町土地利用計画などの考え方を基本に、町の財源確保に必要な企業誘致や各種産業の活性化、住宅と農地や産業用地等との棲み分け、交通アクセスや基盤整備等を考慮し進めたいと考えております。その中で現在の各地域の生活環境やコミュニティが損なわれないよう、各種施策を講じていく予定です。 また、人口維持については、明和町全体としてまちづくりを考えていくなかで、「明和町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」をもとに、それぞれの地域の状況も踏まえて検討していきます。まちづくりには長期的な視点が必要であるため、長期的なスケジュールを立て、費用対効果を分析するなど様々な観点から検討していきます。 その中で、現在の地域コミュニティを尊重しつつ明和町全体をひとつとして捉え、町外県外にアピールしていくことが必要です。斎王と大淀との結びつきなど各地の資源や伝統・特性などを繋ぎ、明和町の魅力を発信していきたいと考えます。小学校も将来的には 2 校又は 1 校への再編を計画する中で、オール明和の考え方でまちづくりを進めていく考えです。 なお、企業誘致に関しては、事業所設置奨励金制度を平成１７年度より実施しています。昨年度末までに１１件の実績があります。今年度もいくつかの新規立地の予定もありますが、今後も三重県とも連携し、企業の誘致を進めていきます。
・この計画に賛成だが、最近サルやイノシシの出現で子ども達が外で遊びにくい環境になってきた。そういうことも考慮して学校整備、まちづくりをしてほしい。	山林等での開発が進み、生息場所が縮小されていく中で、サルやイノシシの出没も増えています。また、アライグマやハクビシンなどペットとして持ち込んだ外来種の野生化繁殖も増えています。これらの駆除対策と並行しつつ土地利用計画を進め、過ごしやすい学校、住みやすい明和町を目指します。

⑧財政面について　　　　　　<質問・意見等一覧>　　　　⇒　　　　<回答>

＜質問・意見等一覧＞	＜回答＞
・再編小学校を造った場合と、６校を存続させた場合の費用比較が書かれていない。具体的な根拠から結論を導いてほしい。 ・再編理由の一つである、財政面について説得力が無い。費用対効果を示してほしい。 ・財政面について、再編小学校を建設する場合の費用を示していただくと、もっと良い議論ができるのでは。 ・財政が厳しいから政府の支援を受けるために学校統廃合を行い、教育経費の削減を行うものになっている。 ・教育費の削減のために再編なんてあり得ない。本当に子供達の未来を考えているのか。 ・再編小学校を建てる場合と、今の６校を維持した場合とで、それぞれいくらかかるか。 ・再編した後の旧校舎の活用について、維持管理費が結構かかるのでは。 ・令和７年度までに再編小学校を建てる計画で進むのであれば、令和７年度までに役場の建て替えは難しいのか。県下で一番耐震性が無いと聞き、心配である。 ・財政面から新しい学校を建てなくても、６つの小学校は耐震工事済だから実際はまだ使えるのでは。既存校舎を改修した方が効率的ではないか。その方がコミュニティも維持できる。 ・財源が足らないのであれば大きな校舎を建てる必要は無いのでは。今の６校に耐震・免震機能を持たせれば十分ではないか。そうすれば、地域のコミュニティも守れ、目の行き届いた教育もできるのではないか。 ・構造別での費用については検討したのか。	財政面も校区再編の理由の一つですが、まず前提として教育や学校の防災、安全面のために再編することが第一です。前回の住民説明会でもお伝えしましたが、児童が安心・安全な環境下で教育を受けることができるよう、ハザード区域外に安全な学校を建設したく考えます。 また、現時点における各学校間の児童数の差が激しいことや６０年間の人口予測における児童数が減少傾向であることから、小学校の規模を適正化し望ましい学習環境及び生活集団を形成することが必要です。国の基準では、児童の社会性や多様性などを育む観点から、クラス替えが可能となるには１学年当たり２～３学級数で整備することが望ましいとされています。 そこで費用比較について、６校を維持した場合（６校それぞれ校舎の築６０年目で校舎及び体育館を建て替え）と、校区を再編し第１期再編小学校、第２期再編小学校を建設した場合とで比較検討しました。それぞれ、耐用年数が来た際に校舎や体育館を建て替えるものと想定し、経費としては、建設費と維持管理費（光熱水費や修繕費、委託料など）、消耗品費、人件費など、さらに、数年に一度の大規模改修、補助金、起債、再編学校小においてはスクールバスなど、予算上学校に関係する経費を考慮しています。なお、６校維持する場合において、新たに建て替える校舎、体育館は必要最低限の大きさとして試算しました。また、再編小学校を建設する場合の廃校となった学校の経費としては、跡地利用の方法にもよりますが、遊具点検委託、草刈り等の労務費、電気代（基本料金のみ※概算）、水道代（基本料金のみ）、浄化槽法定検査代、浄化槽維持管理委託料、電気保安委託料、消防設備点検委託料、ＡＥＤ使用料、下水道使用料（基本料金のみ）を計上しております。 以上のことから、概算ですが再編小学校を建設した方が今後６０年間トータルで、約６０億円程度の費用を削減することができます。また、県費教職員の人件費も含めると約２５０億円程度の削減が可能です。ちなみに、６校維持した場合の試算では、道路等の整備費を実施しないことや、補助金上限以内の規模の建物しか建設しないことを前提としているため、道路等の付帯整備を実施する場合や、余裕のある規模の校舎を建設する場合は、さらに億単位で費用に差が生じます。 なお、この試算結果と町の財政事情を勘案すると、役場を含むその他の公共施設等のここ１０年以内の建て替えについては不可能と考えますが、将来のある児童のことを考えると、小学校を一番に考える必要があります。 そして、学校毎に様々な建設条件があるため、構造別の一般的な建築コストの比較は困難ですが、概算として国が定めた概算要求に用いる新営予算単価を用いて構造別工事費を算出した結果（２階建、延床面積約９，８００㎡）、鉄筋コンクリート造が一番安く、約３０億円です。次に鉄骨造で、約３２億円、木造が一番高く約３６億円となりました。木造の場合は建築物の柱のスパンにより費用に大きな差が出る場合がありますが、耐震性を高めるために柱を多くすればするほど高くなることや、耐力壁の部分は一般的に集成材を使用するためその費用が高く、工期も長くなることなどから、一番費用が高くなる傾向があります。 また、構造により耐用年数に違いがあり、鉄筋コンクリート造が一番長く、次に鉄骨造、木造が一番短く、鉄筋コンクリート造の半分以下です。 今後、再編小学校の建設を進めていく際には、より詳細に費用対効果を検証し最適な手法により学校建設を行っていきたく思います。
・なぜここまで財政が厳しくなったのか。 ・都市計画も、財政を勘案した計画が必要。	町内の少子高齢化の影響による社会保障費の増加、公共事業等による公債費の増加の影響が大きいと考えています。今後は、行政全体の計画についてあらゆる財政面を考慮し、費用対効果等を分析しつつ進めていきます。
・子ども達の将来を考えたとき、お金が無いことで再編を進めるのはどうか。いくらでも節約できるのでは。	財政面も再編する理由の一つですが、再編を目指す最大の理由は適正規模・適正配置のよりよい教育を目指すためです。

⑨スケジュールについて　＜質問・意見等一覧＞　⇒　＜回答＞

・スケジュール案を出されると、スケジュールありきで決められている、と感じる。 ・結局、スケジュールありきではないのか。 ・スケジュール案は、これでやっていく自信があるのか。このくらいの気持ちで行く、ということなのか。 ・もっと早く進めた方が良い。維持管理費が結構かかる。遅い。	町としては、教育面や防災面の課題から可能な限り早く再編を行う必要があり、建物の耐用年数から建て替えや改修等が必要な時期を想定しつつ、現時点で考えられる最短のスケジュール案をご提示させていただきました。 スケジュール案は決定ではありませんので、今後の様々な情勢やいただいたご意見等により適宜、見直しを行い修正していきます。
・どうして、ホームページ上にスケジュール案が載っていないのか。説明会でスケジュールを示したら、了解得られると考えているのかと思ってしまった。	説明会等で意見を十分聞いていない段階で、スケジュールをホームページに掲載することは時期尚早と考えました。 今後は、ホームページで町のスケジュールを示すとともに、内容等については検討・精査し時点修正していきたいと考えます。
・令和７年度に再編するのであれば、幼保の再編により元々の幼稚園や保育所を卒園させてもらえず転園した子ども達が、また最後の１年を通い慣れた学校で過ごせず転校してしまう。小学校の合併自体は必要なことと理解していますが、また同じ子ども達に小学校の卒業・中学校の入学といった大事な１年に大きな環境の変化を強いることは避ける様な配慮をお願いします。もし開校を急いで十分な準備が出来ないおそれが出るようならば、しっかりと下準備をするため１年合併を遅らせることも検討してもらえないでしょうか？また、転園した子ども達の親の中には、「今せっかく新しい友達と仲良くなったのだから、早く合併させて同じ学校に通わせてあげたい」という意見もあり、もし逆に１年前倒ししても十分な準備が可能なのであれば、令和６年から合併した学校に通い、小学校最後の２年間を新しい学校で過ごすのでも良いと思います。幼保の転園で辛い思いをした子ども達がまた「最後の１年だけは別の学校」という状況を作り出さないようにしてほしい。	スケジュール案については現時点で考えられる最短の計画ですので前倒しは困難ですが、今後様々なことを検討・議論していく中で計画が遅延する可能性はあります。引き続き再編に関する問題点等を検討し、必要であれば見直しを行い修正していきます。

⑩説明会について（追加資料、進め方など）＜質問・意見等一覧＞　⇒　＜回答＞

・８年前から協議してきた中で、なぜ住民説明会が無かったのか。いきなり新聞報道で知りショックだった。 ・地域への説明より新聞に先に出た。先に説明すべきだった。	東日本大震災の発生後、特定の地域への意見交換会や様々な検討委員会、庁内会議等を十分に重ねて基本計画案をまとめ、ようやく説明会を開催できる状況となりました。今後は複数回の説明会等を開催し、ご意見ご提案等も伺いながら丁寧かつ迅速に進めていきたいと思います。
・なぜ、まちづくりやコミュニティ担当の部署の職員がこの説明会にいないのか。いた方が私達もいろいろと分かる。	説明会で頂いたご意見等には、まちづくりや基盤整備についてもご意見をいただきました。今後の説明会には教育委員会以外の関連部署の職員が、それぞれの観点からお答えさせていただくため説明会に出席させていただきます。
・出た意見等を広報やホームページ上で周知していただきたい。 ・これら意見の回答は、どこで頂けるのか。町外の者では見る機会も無いので、その辺考慮してほしい。 ・今日見せていただいた表などを頂きたい。	回答も含めて町ホームページ上で周知します。
・これから小学校へあがる子を持つ親御さんが来ていない。もっと啓発活動をしないと、最終決定する際、揉めると思う。 ・説明会にどうしてＰＴＡの方がこんなに少ないのか。ＰＴＡと地域を含めた連携をして、将来の大事な子ども達を作っていかないといけないので、ＰＴＡの方達が意見等を言える場をもっと設定してほしい。	今回は一般の説明会と併せて、就学前児童の保護者を対象とした説明会を実施します。 周知方法については、案内文書の配布のほか、ホームページや行政防災無線等の活用についても検討します。
・２校案とあるが、１校ではいけなかったのか。どんな意見が出たのか。 ・全国で一番多い小学校の人数はどれくらいか。小学校１校区は検討したのか。１校にした方が財政的にも良いと思うが。他県の大規模校の確認はしたのか。	現在の人数で１校区にした場合、児童数は 1,000 人を超え、県下最大の大規模校になります。これは、国の１学年２～３クラスという適正規模を大幅に上回ります。昨年度、県内一の大規模小学校の視察を行い、先生の話や児童の様子等を伺い、児童生徒一人ひとりの把握が難しい、学年間の交流がしにくい、施設・設備の利用に制約が生じる、登下校時の密度が非常に高く危険、といった問題が見てとれました。このことから、現時点で１校区にするには児童数が多すぎると考えます。ただし、今後の人口推移を検証しながら、１校区とした場合が適正と判断すれば、現時点の２校区案に限らず、１校区も視野に入れ柔軟に対応していきます。

・南海トラフ地震はいつ起こるか分からないので、個人的には順調に再編計画が進んでほしい。その中で、行政として立場上譲れない部分を、丁寧な説明をお願いしたい。住民の多数の意見をできる限り反映を。 ・町外から引越してきた方も分かるように、通学方法など現状の説明も詳しくいただきたい。 ・実際に小学校が再編後、地域に学校が無くなり子ども達がいなくなりそうな場所があるので、示された統計や推計は見直した方が良いと思う。 ・説明された合意形成を、是非ともお願いしたい。 ・６０年先の人口予測について、地域別でも出していただきたい。	可能な限り丁寧かつ分かりやすい説明、資料を提供させていただきます。 また、合意形成ができるよう進めていきます。
・統廃合により地域が無くなった等の失敗例や、逆に成功例を紹介してほしい。	近隣市町や全国の事例から、Ｙ字型のような地形をした本格的な山間部を含む校区の統合などの場合、遠く離れた町の中心部に学校だけではなく店舗等も集中しており、どうしても学校が無くなった地域は不便で人口減少の傾向があります。ただし、学校が無くなる前から人口減少が起きるなど、学校が無くなったことだけが原因ではなく、町全体として人口が減っている事例が多くあります。ただし、そのような中でも跡地利用としてグラウンドを開放したり、体育館を社会体育施設として活用している事例が多く、地域コミュニティの場となっております。また、跡地利用の検証が進まずに学校の統廃合と同時に跡地利用を開始できていない市町もあります。 明和町としては再編小学校を建設する前より跡地利用検討委員会等で十分に検討し、再編してすぐに学校跡地を有効活用できるよう進めていきたく思います。また、明和町は本格的な山間部を含むＹ字型のような地形ではなく、地理的にも松阪市と伊勢市の間に位置し、東西に国道や県道、南北に明和中央線が走る大変利便性の良い町です。校区が編制されても、まちづくりを含めて様々な観点から、より良い住みやすい町を目指します。 加えて、近隣市町において、廃校となった旧校舎を歴史館として会館したところがあり、県外からの来客も多く、跡地利用として成功している事例があります。このような成功例や前述の注意点をしっかり検証し進めていきます。
・隣接地に小学校が２つある事例が、他の県や市町にあるのか。	県内で、四日市の笹川東、笹川西の両小学校が大きな道１本隔てて隣接しておりましたが、平成３１年４月より統合により、笹川東小の地に新たに笹川小学校として運営を開始している事例がございます。約２０年後の第２期再編小学校の建設地については第２グラウンド周辺を念頭に入れつつ、今後の社会情勢等を鑑みて検討していきます。また、今後の人口推移を検証しながら、１校区とした場合が適正と判断すれば、現時点の２校区案に限らず、１校区も視野に柔軟に対応していきます。
・次回の説明会はいつか。約束してもらいたい。	今年度末に基本計画をまとめ、その説明会を令和３年４月から５月にかけて実施できればと考えております。

⑪その他意見・思い・願いなど　＜質問・意見等一覧＞ ⇒ ＜回答＞

・将来的に町全体の人口が減っていく想定の中、財政難ということもあるので第１期再編小学校は広めに造り、第２期の再編時には残りの児童もそこへ入れるようにしてはどうか。小中一貫教育の観点からも、小学校を１校に方が良いのでは。 ・隣に小学校があるなら、１校の大きい小学校を建ててはどうか。	今後の人口動態より、１校区とする方が適切と判断する場合は、現時点の２校区案に限らず１校区も視野に入れて柔軟に対応していきます。
・なるべく学校の近くから通わせたい。第２期再編小学校の場所が、実際どこになるか気になる。 ・基本、竣工より６０年目を節目とするなら斎宮小学校、明星小学校は後何年あるのか。 ・斎宮小学校と明星小学校の再編は、令和２０年頃との説明があったと伝えて良いか。	斎宮小学校と明星小学校に関しては、斎宮小学校の耐用年数が経過する約２０年後を目途に再編し、明和中学校第２グラウンドに第２期再編小学校を建設することを念頭に入れて進めていきます。ただし、この期間に社会情勢の大規模な変化や町の財政状況の好転など見込まれる場合は、建設場所等について再考する必要があります。また、約 20 年後の再編時の人口動態により、小学校を２校維持するのに適当でない場合は、町内小学校を１校のみとすることも視野に入れ、検討を進めていきます。
・修正小学校の複式学級は数年後に解消されると聞く。再編には疑問が残る。 ・修正小学校について、斎宮小学校や明星小学校と同じ扱いにしてほしい。北の３校とは意味合いが違う。 ・修正小には津波は来ないし耐用年数にも余裕がある。他の小学校へ行くにあたり、逆に通学の安全面の課題が出るのでは。	児童数の推計によれば、修正小学校の児童数は引き続き５０人前後を推移するため、教育機会均等上、早めに再編することが望ましいと考えます。明和町の北部の３校については再編の理由の一つに防災面がありますが、全ての学校において教育環境を良くするために再編することが一番の理由です。 通学先が変わり通学路も変更となるので、児童の通学に関する安全確保に向け、今後検討していきます。
・明星小学校の体育館にエアコンを早くつけてほしい。また、校舎も老朽化が激しいので、是非、環境改善を。	経常的な修繕については、例年、一定の修繕費を計上していますが、老朽化に伴う大規模な修繕工事、教育環境を改善するための大規模工事については多額の費用がかかるため、国庫補助金等の財源を確保した上で実施する必要があります。町としても限られた財源のなか、内容を精査した上で計画的に修繕を実施していきます。
・一番危惧しているのは財政関係よりも斎宮跡関係である。3，４級区域は空き家になっても買い取れない。維持管理費等の見直しも必要。年間６５００万円程かかっているはず。文化庁へ足を運んで対応お願いしたい。	引き続き、検討いたします。
・斎宮小学校について、生徒数が少なくないのや児童クラブも新しく整備されたこと、学校が遠方になると朝の読み聞かせボランティアについて参加しにくいこと、また、わざわざ統合して低い土地に建てない方が良いと思われることや地域の交流が薄れてしまうことなどから、再編には反対です。	斎宮小学校が耐用年数を迎える約２０年後の状況にもよりますが、小学校区の編制は明和町全体で考えていくことですので、あらゆる観点から検討した上で、その時点で最適な小学校区に編制します。 再編され別の新しい学校へ通うことになった場合でも、ハザード区域外の安全な場所へ校舎を建設し、教育においても教育委員会、教職員、保護者が連携し、地域の方々が様々な形で学校に関わっていけるような学校づくりを目指します。
・「編制」の言葉の意味について、「編制」は大きいものを小さいものに、ということ。今回の案で学校区の編制という部分で、大きなものを小さくしていないので、言葉の意味的にずれていないか。	「編制」は、「個々のものを集めて組織すること」ということで、町として最適な組織（学校区）に組みなおす、という意味を込めて「編制」という言葉を使用しています。
・廃校ありきでは無いということをお願いしたい。 ・どこまで意見を受け入れられるのか。結局、この案で決まる気がしてならない。	廃校ありきではなく、様々な観点から小学校区の編制を検討し計画案を作成いたしました。引き続き皆様からのご意見を伺いながら計画の見直し、追加等を含めて検討していきます。
・実際、今でも他の小学校へ行っている例はあるのか。	区域外通学の申請理由が許可基準の範囲内であり、町が区域外通学を許可した場合は、指定校区以外の学校に通学しているケースもあります。